

ウェルネス クラブ

2024年

11月

いつまでも最上の健康を・・・
その喜びを多くの人に伝えるために

発行：株式会社 **ライフケア**

東京都目黒区碑文谷 5-4-20

TEL 03-3794-5471

ホームページ：lifecarekk.com



蕨野美幸さん

エビデンスに基づいたサプリメントで、 血液のがん“急性骨髄性白血病”を克服！！

ご息が高校進学タイミングで“急性骨髄性白血病”
を発症。ご本人もご家族も大変な試練に見舞われました。

ライフケアの「健康講座」で熱心に学ばれ、
エビデンスに基づいたサプリメント摂取を実行され、
病を乗り越えられました。

息子は、2023年1月、中学3年。高校に合格した喜びも束の間、2日後に、“急性骨髄性白血病”を発症しました。この病は、血液中の細胞の一部に変異が起こり、急速に無秩序に増える事で、正常な血液が作られにくくなる“血液のがん”です。

20年前、主人の姉（出口るみ子）に、長女のアトピーの相談をした際に、ライフケアの「健康講座」に一緒に参加し、松尾先生、カウンセラーの渡辺さんにお会いして、サプリメントの効果を教えて頂いた事がありました。抗がん剤治療（5クール）が始まると、すぐに姉に相談し、松尾先生と渡辺さんのご指導でサプリメントを摂り始めました。

ガンマーリノ 4×3回、**乳酸菌** 1×3回、**ラクトフェリン** 1～2袋、**亜鉛** 1×2回、**E400** 4×3回、**卵殻膜** 大さじ1×2回、**Bコンプ** 1×2回、**SOD** 1～2袋、**A&E** 1×2回、**アガロオリゴ** 小さじ1、**L-シスチン** 大さじ1×2回。（すべて1日量）

1回目の治療より、2回目の方が頭痛や下痢が早く改善され、顕微鏡検査で白血病細胞が消失し、正常な血液細胞が回復してくる「寛解」の状態に達し治療は順調でした。

3回目から毒性が強くなる抗がん剤の為、副作用の骨髄抑制（白血球・赤血球・血小板の減少）で白血球数が0、免疫が低下し、自分の体内の常在菌・体内に侵入した菌で40℃

の高熱が何日間も続き、何種類もの抗菌薬を投与され、なんとか回復しました。入院中は抗菌薬の点滴を外せず、血液検査をチェックして頂くと **GOT:34**、**GPT:51** と、肝臓の検査値が高めで、**ハイレシチン**を大さじ2×3回/日をプラスしました。

⇒ **GOT:20～30**、**GPT:30** 台へ改善。

「健康講座」のテキストに、「抗がん剤の治療は、感染症などの副作用や合併症で休止すると十分な効果が望められない」と載っていたので、早い時期に正常値に戻り安心しました。これ以降、血液検査のチェックの頻度を増やして頂き、**BCAA**、**レスベラトロール**、**コンドロイチン**を摂りました。無事最後の治療を終えた時、医師から「良い治療ができましたよ。」と言われ、辛い治療を耐えぬいた息子を誇らしく思いました。

エビデンスに基づいたサプリメントでの体づくりを教えてくださいました松尾先生、渡辺さん、主人の姉、懸命に治療をしてくださいました医師に心から感謝の気持ちで一杯です。

退院前検診も問題無く、7ヶ月の入院生活を終え、体重は-5kgのみ。

炎症マーカー（CRP）は **0.01～0.05**。

1週間後には高校へ登校できました。

病気を予防する事、
普通に過ごせる事の大切さを実感し、
喜びをかみしめる毎日です。

ペプチド タンパク質

血漿成分中には100種類以上の「タンパク質」が含まれていますが、そのうち、**アルブミン(ALB)**が60～70%を占めています。アルブミンは、血液中に含まれる主要な「タンパク質」の一種で、栄養状態や肝機能、腎機能等を反映する指標です。

血液検査項目の「アルブミン値」が低いと…？

- 赤血球の材料が少ない (ヘモグロビン=タンパク) ⇒ 「貧血」
- 血管を作る材料が少ない (コラーゲン=タンパク) ⇒ 「脳出血」
- 抗体を作る材料が少ない (抗体=タンパク) ⇒ 「肺炎」 & 「結核」
- 筋肉を作る材料が少ない (BCAAアミノ酸=タンパク) ⇒ 「転倒」 ⇒ 「骨折」 ⇒ 「認知症」

ペプチドとは

「タンパク質」は、“アミノ酸”が多数連結(ペプチド結合)した高分子化合物です。“アミノ酸”の分子が**50個以上**結合したものが「タンパク質」となります。

「タンパク質」が胃で消化されると“ペプチド”になります。ペプチドとはアミノ酸の分子が数個～数十個つながっている“アミノ酸”の集合体です。“アミノ酸”の数が2つ、3つ、4つ、5つ……となるごとに、ジペプチド、トリペプチド、テトラペプチド、ペンタペプチド……といいます。

厳密には“アミノ酸”の数が10個までがオリゴペプチド、それ以上はポリペプチドと分類されます。

食事をすると、食べ物に含まれる「タンパク質」は胃に入り「胃酸」で「ペプチド」に分解されます。更に、膵臓や小腸の「消化酵素」の働きで更にバラバラ分解され、初めて、「アミノ酸」という最小単位になり、吸収されます。

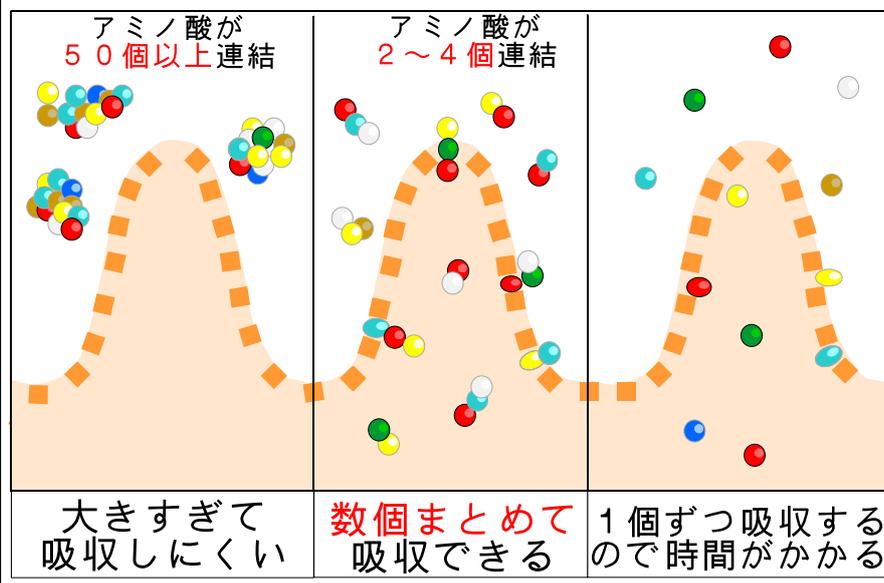
従って、「ペプチド」や「アミノ酸」を摂取する事は、消化吸収力が衰えてくる高齢者のタンパク質不足(アルブミン値の低下)を補うために、必要な事なのです。

その後、「アミノ酸」は小腸の壁に幾つもある細い血管の中に入り、血液により肝臓へ運ばれます。そして、再び肝臓から血液によって体の各細胞に運ばれ、そこで、各部分に必要な形のタンパク質に再生されるのです。又、「アミノ酸」は「目的別」に摂取できるので効果が早いのです！

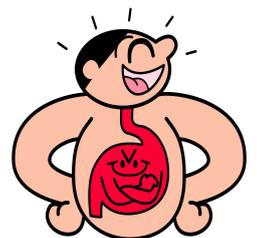
正に、アミノ酸は、身体を作るための不可欠な成分です！

タンパク質 ➡ ペプチド ➡ アミノ酸

タンパク質



アミノ酸



健康長寿に“ペプチド”

我が国の高齢化の進行はそのスピードの速さ、規模の大きさ（100才以上61,568人）において歴史上例のないものです。現在の日本は、人口減少、少子高齢化を起因とする超高齢社会が到来し、2040年には“**認知症患者数**”は約584万人と、2022年から141万人増加、また軽度認知障も加えると患者数合計は1,197万人になります。



NHKクローズアップ現代の“百寿者研究”から見えた健康長寿の秘けつは、**コミュニティ・食事（栄養）・運動**です。

長寿につながる『3つの共通点』では、

健康寿命の長い人たちは以下の共通点が挙げられます。

- ① 認知機能が高い(脳の神経伝達物質＝アミノ酸＝タンパク質)
- ② フレイル*になりにくい(筋肉を失わない＝タンパク質＋運動)
- ③ 心臓を中心とした循環器系血液循環が良い(血管内皮細胞＝ルチン＋EPA＋E)

私達は加齢と共に、食事の摂取量が少なくなってきます。この事は誰にでも共通するので、当然と受け止められていますが、しかし、食事の量が減れば、当然「**タンパク質**」の摂取も少なくなり、血液検査では「**アルブミン値**」（約3週間前の栄養状態を反映）も低下してきます。

アルブミンの正常値は**4.0g/dl**以上で、**3.5g/dl**以下を『**低栄養**』と呼びます。つまり、血液検査で**アルブミン値**が**4.0g/dl**以下になっても、**3.5g/dl**以上であれば、正常と判断され、殆どのケースではそのまま放置されてしまいます。患者も**3.5g/dl**以上であれば、特に自覚症状もない為に放置しています。しかし、アルブミン値が低下すれば、タンパク質の摂取と吸収力の低下と判断して、食事からのタンパク質摂取だけに頼るのではなく、積極的に吸収力の良い“**ペプチドタンパク質**”の摂取を始めるべきなのです。**ペプチド**とは、タンパク質が吸収の良い状態に分解されたものです。

“**ペプチドタンパク質**”の補給は、「**認知機能低下＋フレイル***」の予防につながり、元気な“**健康長寿**”の達成に、間違いなく貢献するでしょう！！

*フレイル：身体的・精神的・社会的な脆弱化

吸収と利用率が良い「卵殻膜」タンパク

	消化吸収率	タンパク利用率
卵殻タンパク	97.0%	93.5%
乳タンパク	96.9%	81.6%
大豆タンパク	90.5%	61.4%

「**卵殻膜**」は“卵”の薄い膜(0.07ミリ)で、ヒナの誕生まで保護し外界から守る皮膚のような役割をしています。又、古くは力士が怪我をした際に傷口に卵殻膜を貼り、傷の治療のために使われました。



「線維芽細胞」を増やす「卵殻膜」

“**線維芽細胞**”は、「**コラーゲン**」や「**ヒアルロン酸**」を生産する“**美と健康の細胞**”です。

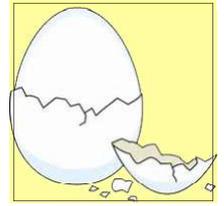
お肌の70%はI型とIII型コラーゲンで構成されています。特に、お肌の弾力性を保つIII型は“**ベビーコラーゲン**”といわれ、赤ちゃんのお肌に最も多く含まれています。赤ちゃんの肌の“**ツヤツヤ**”とした感触は“**III型コラーゲン**”の特長です。



“**100%ペプチド化**”されたタンパク質なので、胃腸の働きが低下し、アルブミン値の低い「**高齢者**」に最適な「**タンパク質**」です。しかも、ヒトの皮膚のアミノ酸組成と非常に近い構成です。

「**卵殻膜**」は、肌の「**III型コラーゲン**」の生成を促進し、赤ちゃんのような**ハリ**があって**シワ**のない肌を取り戻す働きをもっています。正に、美と健康の「**タンパク質**」です。

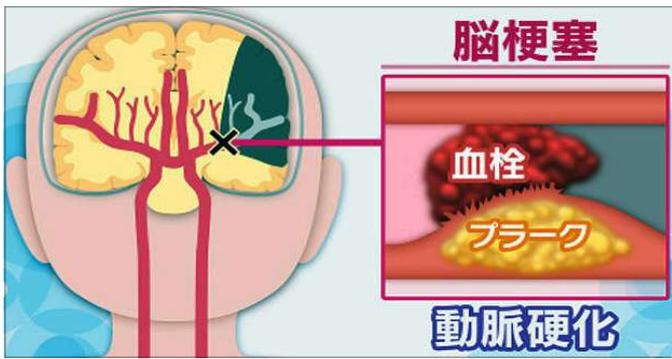
「脳梗塞」に卵殻膜！



「脳梗塞患者」は、174.2万人！（2020年・厚労省「患者調査」）
なんと、「脳血管」の治療を導くのは「免疫の研究」だった。

⇒「卵殻膜」が、「Th17 細胞」の増殖を抑制し、「炎症」を抑制！！

東京大学の加藤久典特任教授は、2007年より研究していた「卵殻膜」が「炎症」を誘導する「Th17 細胞」の増殖を抑制し、「抗炎症作用」がある事を発見しました。その結果、「脳梗塞」の悪化を予防することを世界で初めて発見したのです。



出典：NHK「きょうの健康」

- ①インターロイキン-1β (IL-1β)、
- ②インターロイキン-23 (IL-23)
- ③インターロイキン-17 (IL-17)

つまり「脳梗塞」で脳の組織が死ぬと、脳の外から大量の「マクロファージ」が浸潤してきて、それが「死んだ細胞」や「炎症物質」に触れて活性化し、「炎症」を起こします。

さらに獲得免疫系の T 細胞も呼び寄せられて IL-23 や IL-17 を中心とした “Th17 型” の「炎症」を起こすのです。

一見、直接の関係がない様な「免疫系」と「脳血管系」が、「脳梗塞」に関係していたのです。

この炎症性サイトカイン、特に IL-17 が “神経細胞死” を誘導すると考えられます。七田氏は、抗 IL-17 抗体を投与することで「脳梗塞」が改善する事を発見したのです。但し、残念ながら、IL-17 が関与する脳組織の損傷は、発症後 3 日目以内で起きることなので、早期の抗 IL-17 抗体の投与ができないと効果がない事もわかりました。

「脳梗塞」と「免疫」について研究していた 2007 年に加藤教授の研究室に一人の若い脳神経内科医、七田崇氏（現・東京医科歯科大学教授）が訪ねてきました。彼は「脳梗塞」を専門にしていますが、有効な治療法がほとんどない現状を強く憂い、何とか「脳梗塞」の病態を理解し、新しい治療法を開発したいと、加藤教授の研究室の門を叩いたのでした。

そこで、次のような対策が有効なのです。

“Th-17 型” の「炎症」を抑える「卵殻膜」

「脳梗塞」は日本では 174 万人程度の患者がいるといわれており、特に寝たきりの原因になることが多く、「認知症」と並んで、その解決は「高齢化社会の課題」です。

「脳梗塞」は、血管が詰まって酸素や栄養が行き届かず脳組織が死ぬ病気で、脳の単純な損傷、つまり傷害です。それに免疫が関係するとは、当時誰も考えていませんでした。

東京大学の加藤久典特任教授は 2007 年より研究していた「卵殻膜」が、「Th17 細胞」の増殖を抑制し、又、「抗炎症作用」がある事を発見しました。



ところが、七田氏が加藤教授の研究室にある“サイトカイン” 遺伝子破壊マウスに「脳梗塞」を実験的に起こさせたところ、ある種の“サイトカイン” が「脳梗塞」を悪化させる事が解ったのです。

「卵殻膜」は、古くからその“炎症抑制作用”が知られていましたが、加藤教授は、この「卵殻膜」をデキストラン硫酸ナトリウムで誘発した「大腸炎マウス」に与えて、腸管上皮の損傷の修復と、“炎症”による腸疾患の改善効果”を明らかにしました。

“サイトカイン（免疫を活性化）” は、3 種類ありその中で③インターロイキン-17 (IL-17) が「脳梗塞」を悪化させている事を発見。

⇒「酪酸菌＋乳酸菌」を一緒に摂取する